

○ 指導室

1 学校における教育課程及び学習指導並びに専門的事項の指導に関すること

(1) 町内小中学校定例校長・教頭会議の対応（毎月1回及び臨時）

- ① 教育委員会からの連絡及び協議
- ② 今日的教育課題の資料の提示並びに指導の依頼
- ③ 各種調査・提出物等の依頼
- ④ 各種研修講座等への参加状況報告並び依頼
- ⑤ 教育関係年間行事予定の月ごとの微調整

(2) 学校教育訪問指導の推進

- ① 教育局義務教育指導監による経営指導訪問（全町立学校実施）
- ② 教育局指導班指導主事による要請訪問指導
- ③ 定期的な指導室長の訪問指導（各町立学校実施）

(3) 各種計画書作成の推進

- ① 教育課程編成届（白糠町立学校管理規則第34条・白糠町立幼稚園園則第7条の規定）
- ② 学校経営計画書

(4) 関係機関・団体との連携による推進事項

- ① 白糠町教育研究所
 - (a) 5月集会、2月集会への対応
 - (b) 所員会議における助言
- ② 生徒指導研究協議会
 - (a) 今日の課題にかかわる指導の対応
 - (b) 講演、研究協議への参加
 - (c) 管内生徒指導連絡研究協議会への対応
 - (d) 白糠町子ども会議の運営指導・補助
- ③ 進路指導協議会
- ④ 教育相談
 - (a) いじめ、不登校など心の教育相談への対応
 - (b) 育成センター青少年育成指導員との情報・意見交換
 - (c) 相談窓口のPR

相談窓口

☆白糠町教育委員会（指導室）	2－2 1 7 1	（内線 2 6 6	二階）
☆青少年育成センター	2－3 3 7 7	（専用電話	高橋）
☆やまびこ児童館	2－2 0 8 1		
☆ふれあい児童館	5－4 0 0 6		
☆白糠町子育て支援センター	2－2 1 5 5	（何でも子ども相談室）	
☆白糠町子ども発達支援センター	2－2 2 2 8		
◆相談時間：月曜日～金曜日（9:00～17:00）			

⑤ 幼小中高の連携、小中一貫教育の推進

- (a) 学校教育、家庭教育、青少年の健全育成、ふるさと教育、環境教育、ボランティア活動等を通じた地域の教育力の向上

- (b) 開かれた学校の交流、連携
- (c) 幼小・小中・中高各学校間の計画的、継続的交流の推進
 - ・白糠地域の主な連携内容
 - …行事を通しての児童生徒間交流・合同研修の実施（公開研）・後期課程教員による乗り入れ授業の実施・教職員交流・保護者交流
 - ・庶路地域の主な連携内容
 - …行事を通しての児童生徒間交流・合同研修の実施・後期課程教員による乗り入れ授業の実施・教職員交流・保護者交流
 - ・茶路地域の主な連携内容
 - …中学校教員による単元担任制での乗り入れ授業・教職員交流・合同研修・小中各種行事交流

2 教職員等の研修に関すること

(1) 研修講座等への参加奨励

- ① 北海道立教育研究所の各種研修講座
- ② 北海道立理科センターの各種研修講座
- ③ 北海道立特別支援教育研究センターの研修講座
- ④ 釧路教育研究所講座、釧路教育研究センター研修講座・講演
- ⑤ 町教育研究所研修事業、国立・市町村立学校指定研究会
- ⑥ 北海道教育委員会、教育局主催の各種研究協議会・研修会・講座・講習等
- ⑦ 町教育委員会主催研修事業、町教育委員会指定校発表会、町研協力校発表会、町研究協議会主催講演、P T A主催事業等

(2) 町教育研究所研究指定

- ・1年次…茶路小中学校
- ・2年次…白糠学園

3 外国語指導、国際交流活動

(1) 外国語指導助手（中国語）「モウ・ハイフェイ」中国国籍

外国語指導助手（中国語）「ワン・ケリ」中国国籍

外国語指導助手（英語）「ワイレス・マッシュー・ロバート」アメリカ国籍

外国語指導助手（英語）「ケチャム・ジャクリーン・クレア」アメリカ国籍

外国語指導助手（英語）「ボーダリオ・ジェシー・ニコール」アメリカ国籍

外国語指導助手（英語）「コルベット・マッシュー・ジェイムズ」アメリカ国籍
(いずれもJ E T事業の活用による)

(2) 任用 モウ : 令和4年3月～令和5年4月

ワン : 令和5年4月～

W. マッシュー : 令和3年7月～令和5年7月

ジャクリーン : 令和4年7月～

ジェシー : 令和4年8月～

C. マッシュー : 令和5年7月～

(3) 令和5年度活動状況

ワン ～町立学校におけるE Cタイムを週4日、白糠高等学校での中国語の授業を週1日。

W. マッシュー ～白糠学園での外国語活動と英語科の授業を週2日ずつ、白糠子

- C. マシュー ども園での英語に親しむ活動を週1日。また、白糠高等学校での英語の授業を週1日。
- ジェシー ～庶路学園での外国語活動と英語科の授業を週2日ずつ、庶路こども園での英語に親しむ活動を週1日。また、白糠高等学校での英語の授業を週1日。
- ジャクリーン ～茶路小学校・茶路中学校での外国語活動と英語科の授業を週2日ずつ。また、白糠高等学校での英語の授業を週1日。
- ※この他、社会教育課所管の町民対象の中国語教室や英会話教室、ECクラブ（放課後英会話教室）、ECレクリエーションを実施するなど、各種地域行事にも参加した。

(4) 国際交流活動

- ・ECレクリエーション
実施日：令和6年1月12日（金） 場所：庶路学園 参加：児童生徒8名
- ・白糠町青少年海外研修
研修期間：令和6年2月11日（日）～17日（土）
視察先：ニュージーランド
参加生徒：町内中学生6名、白糠高等学校生徒2名 計8名
※事前研修3回、事後研修2回実施

4 ふるさと教育に関すること

(1) 交流教育連絡協議会

① 交流教育推進事業の展開

- (a) 福祉教育の充実のため、幼、小、中、高校、特別支援諸学校及び関係機関、団体等の連携や交流を密にし、交流機会の充実や自ら研鑽を積み資質の向上を図る。
- (b) 住民への「愛のノーマライゼーション」の精神の普及、啓発の充実に努める。
- (c) 情報交流・研修会の開催

(2) 学校におけるふるさと教育活動の実践

学 校 名	主 な 実 践 内 容
白糠学園	【前期課程】 1年生（生活）「身近な人々、地域の場所」 「白小ランドへようこそ」（1、2年生で実施） 2年生（生活）「身近な人々、地域の場所」 「白小ランドへようこそ」（1、2年生で実施） 3年生（総合）「しらぬか大すき」～白糠町の自然をさぐる 「アイヌ文化学習出前講座」 4年生（総合）「しらぬか大すき」～白糠町の歴史をさぐる 「アイヌ文化学習出前講座」 5年生（総合）「しらぬか大すき」～白糠町の食をさぐる 白糠町の食の魅力を発信する 「アイヌ文化学習出前講座」 6年生（総合）「白糠みんなの仕事」～白糠町の産業をさぐる 「アイヌ文化学習出前講座」 【後期課程】 ・キャリア教育（総合） 7年：職業体験（白糠）及び発表 8年：職業体験（釧路）及び発表

学 校 名	主 な 実 践 内 容
	9 年：「3つの未来を考える～白糠・私・私たち～」 ・自然の番人宣言ポスター作成（美術）
庶路学園	3 年生（総合）「白糠の環境」庶路川を中心に（石炭・生物、川に関わる人） 4 年生（総合）「白糠の食」特産品、ふるさと給食、食に関わる人、アイヌ文化講座 5 年生（総合）「白糠町のPR」白糠の自然産業、一次産業、三次産業、アイヌ文化講座 6 年生（総合）「職業調べ」職業調べ、アイヌ文化講座 7 年生（総合）「わたしたちの防災」避難所運営、防災宿泊学習 8 年生（総合）「卒業論文プレ発表」 9 年生（総合）「卒業論文発表」 ※8・9年生の2年間でふるさとを見つめ、発信、貢献、広める
茶路小中学校	・小学3・4年生（総合）「茶路守り隊」地域で起こりうる災害・災害に備えるまちづくり ・小学5・6年生（総合）「私たちのくらしと福祉」白糠の児童福祉・障がい者福祉・高齢者福祉 ・中学1年生（総合）「白糠町+1計画」町の施策のPR・人口増につながる手立て ・中学2・3年生（総合）「白糠町の産業の活性化に向けて」町の産業・活性化に向けた手立て

(3) ふるさと参観日の実施

白糠町の「ふるさと教育」の一環として、町内の小・中学校、白糠高等学校の子どもたちの学習や活動等を広く町民の皆様にご覧いただくため「ふるさと参観日」を開催した。		
○白糠学園	11月11日（土）	全学年公開授業（ふるさと学習発表会、アイヌ文化学習出前講座、ECタイム）
○茶路小中学校	11月2日（木）	全学年（ふるさと学習の発表会）
○庶路学園	10月21日（土）	学園祭の公開
○白糠高等学校	11月13日（月）～17日（金）	全学年の授業公開（授業公開週間）

5 負担金・補助等及び交付金に関すること

（単位：円）

負担金・補助等	交付先	交付金
ふるさと教育学習活動推進協議会補助金	白糠町ふるさと教育学習活動推進協議会	738,000
白糠高等学校教育振興協議会補助金	北海道白糠高等学校教育振興協議会	4,719,829
北海道教育研究所連盟負担金	北海道教育研究所連盟	7,100
町教職員研究事業推進委員会補助金	白糠町教職員研究事業推進委員会	875,510
語学力・基礎学力のびのび推進協議会補助金	白糠町語学力・基礎学力のびのび推進協議会	221,710

自治体国際化協会負担金	(財) 自治体国際化協会	1,075,835
-------------	--------------	-----------

6 学力調査に関すること

(1) 全国学力・学習状況調査

【調査概要】

① 調査の目的

- (a) 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (b) 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (c) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

② 調査の内容

(a) 教科に関する調査

＜小学校第6学年＞ 国語、算数

＜中学校第3学年＞ 国語、数学、英語

- ・身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
- ・知識・技能等を実生活において様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(b) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面
- ・学校に対する調査
指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件等に関する調査の整備の状況、など

③ 調査日

令和5年4月18日(火)

④ 調査を実施した白糠町の学校・児童生徒数

【小学校調査】 町内3小学校の6年生 計44名

【中学校調査】 町内3中学校の3年生 計37名

⑤ 教科に関する調査について

- (a) 中学校3年生は数学において全道平均以上であったものの、小学校6年生においては、全教科、全国及び全道平均を下回った。
- (b) 昨年と同様に学力調査において、記述問題に課題があった状況を踏まえると、自分の考えを論理的に表現する指導を充実する必要がある。

⑥ 質問紙調査について

- ・国語・算数(数学)、英語において、「好き」という回答する児童生徒の割合が総じて高い。しかし、「好き」が学力の定着や家庭学習への取組に必ずしも結びついていないことが課題である。
- ・「学習したことが将来役に立つ」という項目では小学生より中学生の方が全国より高い傾向が見られた。

- ・自分で計画を立てて勉強する児童生徒は多いものの、家庭学習時間・読書時間は全国平均と比べると小・中学校ともに短い結果であった。
- ・小・中学生ともに、早寝・早起き・朝食摂取率に改善傾向が見られた。
- ・「将来への夢や目標をもっている」「学校に行くのが楽しい」「友達関係に満足している」「幸せな気持ちになる」と回答する児童生徒の割合が全国以上であった。
- ・自己有用感に関する項目は改善傾向が見られた。

⑦ まとめと方策

【まとめと方策】

- ・授業が分かることや計画的な家庭学習が学力の定着に結びついていないことから、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善の継続、家庭学習の与え方の工夫などを行う必要がある。

(2) 町標準学力調査

① 目的

標準学力調査を実施し、本町児童生徒の学力状況を把握するとともに、その後の学習指導に役立てることを目的とする。特に、個人及び同一集団の成績の経年変化を見取ることにより、学校改善プランの見直しを図り、児童生徒の確かな学力の向上を目指す。

② 実施内容

- ・小学校 ～ 東京書籍 標準学力調査（C R T）による
- ・中学校 ～ 東京書籍 標準学力調査（C R T）による
- ・本年度の学力の達成状況をより適正に確認し、正確な評価（指導要録の記入）につなげる。
- ・特に次年度の学年の取り組みに向け、課題を把握し、検査結果をより有効に学習指導に役立てるものとする。

③ 実施時期

令和5年12月（3学期実施版使用）

④ 実施学年、教科

- 小学校 第1～2学年・・・2教科（国語、算数）
第3～4学年・・・4教科（国語、算数、社会、理科）
第5～6学年・・・5教科（国語、算数、社会、理科、英語）
- 中学校 第1～3学年・・・5教科（国語、数学、社会、理科、英語）
- 全学年において、i-check を実施

⑤ まとめと方策

- ・小学校3年生で、全教科の平均が目標値に達したものの、その他の学年は、目標値を下回った。
- ・小・中学校全体の傾向として、記述問題の正答率が低いという結果であったが、無回答の児童生徒の割合は改善傾向が見られた。
- ・活用問題の得点が目標値より高い教科や領域もあり、今後の伸びが期待できる兆候が見られた。
- ・9学年中6つの学年が「学校の授業以外ではほぼ毎日勉強する」と回答した児童生徒の割合が全国と比べて高い結果となった。またほとんどの学年が昨年度よりも「ほぼ毎日学習する」と回答した児童生徒の割合が高くなっており、学習習慣が定着している様子が伺えた。

- ・ 昨年の結果と比較すると改善は見られるものの依然としてほとんどの学年で、「平日 3 時間以上動画を見たり、ゲームをしたりする」と回答した児童生徒の割合が全国と比べて高い状況であった。
- ・ 学習習慣、運動習慣の定着や情報端末機器を使用する時間の家庭のルールの見直しなど、規則正しい生活リズムの確立に向けて啓発を図る必要がある。